

2 高大連携に関する取り組みについて

少子化による若年人口の減少や大学全入時代の到来、また教育の質保証が求められるなど、大学、そして高等学校を取り巻く環境は厳しく、日々変化している。高等学校においては特色づくりや進路指導の一環として、大学との連携を模索する動きが活発化する一方で、大学によっては入学者の囲い込みを主たる目的とする高大連携の動きも見られる。

そのような状況下において、本学は付属校、宗門関係学校（教育連携校・関係校）、高大連携に関する包括協定を締結する一般の高等学校に対して、教育の連続性を見据えた「対話型（双方向型）」の高大連携を目指し「学びの接続」と「キャリアの接続」に向けた実効性のある教育連携事業を実施してきた。

2010年度はさらに、これらの成果を一層発展させるため、第5次長期計画アクションプランに従いながら、新たな「高大連携基本方針」を策定した。

1 龍谷大学付属平安中学校・平安高等学校との教育展開

2010年度は、本学の付属校生として1年生から3年生までが揃い、また同校の生徒を対象とする龍谷大学付属平安高等学校推薦入学試験が初めて実施された。これらの付属校生は、高等学校と大学とが共同で構築した正課カリキュラムや高大連携教育プログラムによる教育を受けた生徒であり、本学入学後の活躍も期待される。2010年度は、これまで両校で長年培ってきた教育連携の成果を踏まえ、主に以下のことに取り組んだ。

● 高等学校と大学のワーキンググループによる検討

龍谷大学付属平安高等学校と本学教員による教科ワーキングを組織し、同校の授業や教材に関する意見交換を行った。数学科のワーキンググループでは、本学への進学を希望する生徒が取り組むべき数学の学習課題問題集の改訂版を作成することや、理科のワーキンググループでは、大学教員による演示実験や学習課題図書の提示を行った。これらの課題への取り組み状況の確認にあたっては、夏期に瀬田学舎において、生徒とワーキンググループの教員が直接面談し、アドバイスをを行った。独自課題の設定や高校生への研究室公開の開催などを通じて、付属校生の理系の学びへの意欲の喚起を行った。

● 高大連携科目の設置

高等学校と大学の垣根を越えた魅力ある付属校を目指し、『高大連携科目』（正課科目）を設置している。

「現代を学ぶ」では、高等学校が提示した社会問題に関する講義テーマに即して、事前・事後学習、当日の流れ等について予め高等学校と意見交換を行った上で実施した。2010年度は、龍谷大学進学希望の文系全生徒に対して、「銀行論」（経済学部）、「びわ湖と地域社会」（社会学部）をテーマとして授業を実施し、この授業を通じて、高校生は「様々な視点から現代を観ること」や「俯瞰的に観ること」を学ぶことができた。

「理数研究」では、「数学」と「化学及び物理」の分野そ

れぞれにおいて、本学理工学部教員によるデモ授業や演示実験を行った。大学教員の視点を交えることにより、高校生は一つの問題に対する様々なアプローチや解法を考えることができた。

● 高大連携教育プログラムの実施

大学入学後も強い学習意欲を持つ付属校生を育成するため、これまでの教育連携の蓄積に基づき、学長講演、キャンパスビジット（大学講義聴講）、学部・学科別ガイダンス等の低年次からの体系的な高大連携教育プログラムを実施した。2010年度の新たな取り組みとなるキャンパスビジットでは、高校1年生、2年生の全生徒が、自らの興味や将来を意識した上で学部や科目を選択し、各学舎で講義を聴講した。このプログラムを通じて、高校生は大学の学びや学部の特長などを体感し、大学のイメージをより具体化した。

2 教育連携校・関係校との教育連携

本学は、建学の精神を同じくする宗門関係学校の中で北陸高等学校（福井県）、崇徳高等学校（広島県）、神戸龍谷高等学校（兵庫県）、相愛高等学校（大阪府）の4校と教育連携に関する協定を締結している。2010年度においても引き続き、教育連携協議会を通じて密接な交流を維持しながら、進路意識の醸成と大学進学に向けた動機付けをねらいとした進路学習支援型の連携事業として、主に以下のことに取り組んだ。

● 教育連携校との教育連携事業の実施

生徒の進路意識の醸成と大学進学に向けた動機付け等を狙いとして、出張模擬講義、進路ガイダンス、大学見学会等の進路学習支援型の教育連携事業を実施した。その中でも、教育連携校推薦入学試験で合格した全ての生徒を対象にした教育連携校オリエンテーションについては、新たに高校生同士や大学生との交流の機会を設け、これからのキャンパスライフをイメージさせ、大学生活へのスムーズな移行が図れるよう企画した。また、大宮学舎の見学では、龍谷大学の歴史に触れ、龍谷大学を学ぶ機会とともに、大学生活への意欲を高めることを図った。

その他にも、北陸高等学校1年生、相愛高等学校2年生を対象として、大学見学会を行った。この実施にあたっては、キャンパスツアーに加え、本学に在学するOB・OGの学生や本学職員との交流の機会を設けた。



●「龍谷アドバンスト・プロジェクト」への協力

親鸞聖人の精神・浄土真宗の教えを建学の精神とする全国の龍谷総合学園加盟校を対象とする龍谷アドバンスト・プロジェクト（主催：龍谷総合学園）の企画・運営に協力した。2010年度は龍谷総合学園加盟校の中から17校、生徒74名、教員17名が本学の太皇学院・深草学院に集い、プレゼンテーションコンテストを含む、生徒の課題探求型の学習活動を支援する合宿研修を行った。本学はこのプロジェクトにおいて中核的役割を担い、設定された3テーマのうちの「仏教」と「環境」の講師、学生サポーターを派遣した。このプログラムに対する参加者の満足度は高く、これまで本プログラムに参加した高等学校卒業年次の参加者62人中15人（約24%）が本学に入学している。

3 一般高等学校との教育連携

本学は、連携関係の強化が求められる京都府、滋賀県、大阪府、奈良県の指定校を重点校と位置づけ、合計28校と高大連携に関する包括協定を締結している。2010年度は、イベント的な高大連携だけではなく、各高大連携協定校のニーズにきめ細やかに応える事業や高等学校の特色づくりに貢献する事業を実施し、関係をさらに深化させた。

●大学をフィールドとした高大連携事業の実施

大学の学びの体験や実験・実習施設見学、並びに大学生と交流する事業への高校生の満足度が高いことから、大学をフィールドとして交流型の連携事業（講義聴講体験、大学生との交流会等）を実施した。講義聴講体験は、高校生が大学の通常授業を大学生とともに聴講するプログラムで、2010年度も協定校の2年生約700名が参加した。この取り組みは高校生、高校教員に好評であり、その他にも、「大学生・留学生との交流」、「理系の施設見学、大学院生との交流」といった各協定校のニーズに応える事業を実施し、高等学校の正課授業や進路学習等に寄与した。

●進路学習教材を活用した事業展開

高等学校の進路学習支援の一環として、高校生が将来の職業を見据えて大学の学部・学科選択ができるように職業と学部・学科の関係などを紹介する本学独自作成の進路ガイダンス用冊子（『逆引き！ 学び発見BOOK』）を配付した。本冊子は高等学校の正課授業や正課外の進路ガイダンスで用いられるだけでなく、PTA総会を通じて保護者に対しても配付されるなど、活用の幅が広がっている。これまで4,000部を配付した本教材は、高校教員からも好評のため、2010年度は高等学校から寄せられた意見を反映した改訂版を作成した。改訂版には、本教材の活用方法を収録し

たDVDを新たに加え、これまで以上に高等学校で活用されることが期待される。

●学校評議員の派遣

高大連携協定校である大阪市立高等学校と滋賀県立玉川高等学校において、高等学校と大学の意見交換を積極的に行う取り組みの一つとして、高等学校の取り組みについて外部から評価を加えて提言を行う学校評議員制度に基づく委員を派遣した。

4 その他の連携事業

本学は、これまで高大連携に取り組む中で、個別の高等学校との高大連携に関する包括協定に基づいた事業の展開だけではなく、地域貢献の一環として以下の事業に取り組んだ。

●近隣の教育委員会等との連携事業

独立行政法人科学技術振興機構の助成事業であるサイエンス・パートナーシップ・プロジェクトを京都府立桂高等学校と実施した。本プロジェクトは、京都府教育委員会が取りまとめて申請を行っており、京都府立桂高等学校においても、学力伸長コース（Ⅱ類）理系の2年生全員を対象として、「環境計測」をテーマに本学理工学部物質化学科の教員、TAとともに、高校生が大学の実験施設を用いて、3週合計18時間に渡って集中的に実験や事前・事後課題に取り組んだものである。

本事業は、「理系好き人間」の養成や「高等学校の特色づくり」に寄与するものとして、高等学校としても満足度が非常に高く、2011年度も引き続き京都府立桂高等学校と事業実施の申請を行う。

●「滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座」への協力

地域貢献事業の一環として、滋賀県教育委員会との協定に基づき、「滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座」に、国際文化学部から大学体験講座「異文化との出会い」を提供した。このことを通じて、高大連携に関する包括協定を締結する高等学校だけではなく、滋賀県の多くの公立高等学校の生徒に対して、大学の最新の学びに触れる機会を提供した。

また、出張模擬講義や大学連続講座に積極的に対応するため、新たに高大連携フェロー制度を2011年度から創設する。今後、専任教員と高大連携フェローの協働により、近隣教育委員会との連携体制を整え、大学の学びに触れる機会を増やしていく。